

へいけ塚

たけやまの中腹で
おちうど（ら）はながい眠りをねむり
まれにしか目覚めぬ眠りをねむり
ぼくたちは
あなたらの記憶をさぐりに出かけたわけでした

彼岸で彼岸花も咲いていて
平家の里はこの日もまあくしずかです
しずかごぜんです

平家塚にはいまでもなめくぢりの這った跡がのこり
徳利バチが失敗つづきの土の巣を築いて

平家塚の背負うひくく急峻なたけやまを
たけのはるやまを

ぼくたちはただ、のぼって
いつか来たはずの五輪塔を
へいけのおちうどらのほこらをさぐり
さぐりあてて

ちょうど秋彼岸で祀られる日の
みじかい眠りをさまたげたことでした

ふようも咲いておりまして
つづれさせこおろぎも、どこぞで粉っぽく
しめっぽく いまにもしにそうな
こころぼそげな声で

ところが
たけやまを下りたはんたいがわのやまの
道なき道をけわしくわけのぼる先に
そのやまの中腹にもひとしれず
おちうどの里びとのほかひとしれず
うっそうとくらいなかに、こもれびに濡れそぼつ
三輪塔と五輪塔！

世紀のはっけん だいはっけん！

これが平家のおちむしゃらの里の！
八百余年をひっそりとかくされた敗者らの裔の！
だんのうらのさいごのたたかいをいきのびた者たちの！
つまりはぼくたちの！

隠微な伝承の
にんまりした
アンフェアな
ひるまだきの a f f a i r だったわけです

2021年 10月 16日 18時15分

香川 真澄